

# 王子グループのサステナビリティ

サステナビリティに関する考え方	4
方針一覧	5
サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）とKPI	6
サステナビリティ推進体制	13
サステナビリティのリスク評価	15
イニシアティブ・団体への参画	16
資源循環型ビジネス	21

# サステナビリティに関する考え方

## サステナビリティの取り組みに関する基本方針

王子グループは、1873年の創業以来、150年にわたり事業領域を拡大し、成長を続けてきました。「革新的価値の創造」「未来と世界への貢献」「環境・社会との共生」を経営理念に掲げ、この理念を基本方針としてサステナビリティについての取り組みを進めることで、成長を続ける企業グループを目指すとともに、変化に対応し未来に向けて持続可能な価値を創出します。

### 事業活動を通じた持続可能な社会の構築を目指します

王子グループの基盤となるサステナブル・ビジネスモデル「バリュー・チェーンを通じた資源循環」は、木を育て収穫し、また木を植えるという持続可能な森林経営を実践する「森のリサイクル」、製造工程における水の循環・再利用による水使用量削減、排水浄化に取り組む「水のリサイクル」、紙製品の回収と再資源化を図る「紙のリサイクル」という3つのリサイクルに支えられています。このサステナブル・ビジネスモデルのグローバル展開により、持続可能な社会の構築を目指します。

### 環境・社会的課題の解決を目指します

王子グループは、グローバルに事業を展開する企業グループとして、国内外の環境および社会的課題の解決に貢献することを目指します。特に、「気候変動問題への対応」および「人権を尊重する責任」は、重要なグローバル行動基準と考え、従業員のみならず、サプライチェーン全体で王子グループの方針を共有し、その周知徹底を図っていきます。

### 新たな持続可能な価値を創出します

サステナビリティへの取り組みは、王子グループの成長機会でもあります。環境問題への意識の高まりを受け、社会から求められる持続的価値をもつ製品を提供するために、王子グループの創業のルーツである紙づくりや森づくりで培ってきた多様なコア技術を活用し、木質資源が持つ新たな価値・機能を創出します。王子グループは、事業活動を通じてサステナビリティへの取り組みを進め、社会的価値および経済的価値を創出し、真に豊かな社会の実現へ貢献していきます。

### 関連リンク

<a href="#">経営理念・経営戦略</a>	→	<a href="#">パーパス（存在意義）</a>	→
<a href="#">王子グループ企業行動憲章</a>	→	<a href="#">王子グループ行動規範</a>	→
<a href="#">国連グローバルコンパクトへの取り組み</a>	→		

# 方針一覧

王子グループのサステナビリティに関する方針、ガイドラインなどをまとめています。

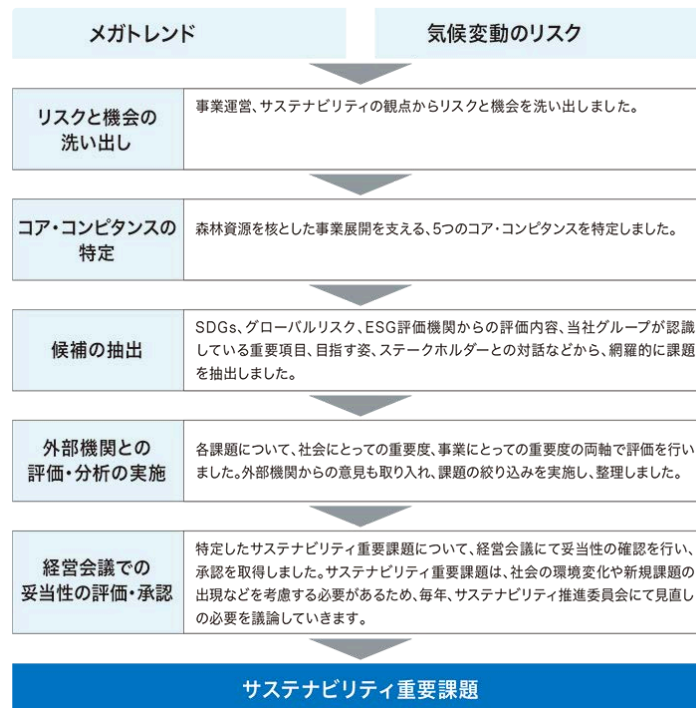
経営方針		<a href="#">経営理念・パーパス</a>
		<a href="#">王子グループ企業行動憲章</a>
		<a href="#">王子グループ行動規範</a>
サステナビリティ		<a href="#">サステナビリティの取り組みに関する基本方針</a>
	環境	<a href="#">王子グループ環境憲章</a>
		<a href="#">環境ビジョン2050</a>
		<a href="#">環境行動目標2040</a>
		<a href="#">環境行動目標2030</a>
		<a href="#">王子グループ生物多様性コミットメント</a>
		<a href="#">森林破壊・転換ゼロコミットメント</a>
		<a href="#">王子グループ持続可能な森林管理方針</a>
		<a href="#">製品安全憲章</a>
	社会	<a href="#">王子グループ人権方針</a>
		<a href="#">王子グループ人財理念</a>
		<a href="#">王子グループ健康宣言</a>
		<a href="#">グループ安全衛生推進計画</a>
	サプライチェーン	<a href="#">王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針</a>
		<a href="#">木材原料の調達指針</a>
		<a href="#">パートナーシップ構築宣言</a>
		<a href="#">「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言</a>
	ガバナンス	<a href="#">コーポレートガバナンスに関する基本方針</a>
		<a href="#">内部統制システム構築の基本方針 </a>
		<a href="#">王子グループ税務方針</a>


# サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)とKPI

サステナビリティ重要課題の特定プロセス  サステナビリティ重要課題-定義とKPI- 

## サステナビリティ重要課題の特定プロセス

王子グループは、刻々と変化する社会動向を踏まえ、事業における機会とリスクを洗い出し、2019年に以下のプロセスでサステナビリティ重要課題を特定しました。2023年には、定義および構成要素を新たに特定し、人的資本の強化に対応するKPIを見直しました。また2024年には、生物多様性保全に対応するKPIを追加しました。



[サステナビリティ重要課題ーリスクと機会、主な取り組み \(統合報告書2025 / 52ページ\)](#) 

# サステナビリティ重要課題 -定義とKPI-

気候変動の緩和・適応    持続可能な森林経営と生物多様性の保全    資源の循環的利用    責任ある原材料調達    環境負荷の低減

人権の尊重    人的資本の強化    職場の安全衛生の確保    安全安心な製品の供給

## 気候変動の緩和・適応

サプライチェーンでのGHG排出削減、森林によるCO<sub>2</sub>吸収・固定の推進を図り、気候変動の緩和に貢献する。

構成要素	KPI (重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量の削減 (Scope1、Scope2)</li> <li>森林によるCO<sub>2</sub>吸収・固定</li> <li>サプライヤー等との協働によるGHG排出量削減 (Scope3など)</li> <li>再生可能エネルギーの利用拡大</li> <li>エネルギーの効率的な利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量 (Scope1、Scope2) 2030年度に2018年度対比70%以上の削減 ・ GHG排出量<sup>※2</sup>削減：20% ・ 森林によるCO<sub>2</sub>純吸収量：50% 2040年度に正味ゼロ・カーボン化 ・ GHG排出量<sup>※2</sup>削減：50% ・ 森林によるCO<sub>2</sub>純吸収量：50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>34.2%削減 ・ 排出量削減：11.9% ・ CO<sub>2</sub>純吸収量：22.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動の緩和</li> <li>再生可能エネルギーの割合増加</li> <li>エネルギー効率の向上</li> <li>環境に配慮した技術の向上</li> </ul>	 7.2, 7.3, 7.a   9.4, 9.5   12.2   13.1, 13.2, 13.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>固定量<sup>※2</sup>の拡大 1億7,000万トン以上 (計算値)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1億4,202万トン</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭使用量の低減等により、再生可能エネルギー利用率60%以上の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>56.4%</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年平均エネルギー消費原単位年1%以上の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.1%削減 (2020~2024年度)</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量 (Scope 3) 2040年度にチップ船からの排出量を2018年度対比40%以上削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>33.6%削減</li> </ul>		



## 持続可能な森林経営と生物多様性の保全

保有・管理する森林において、環境および地域社会に配慮した持続可能な森林経営を実践し森林資源を活用するとともに、生物多様性保全をはじめとした森林の多面的機能を発揮する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値※1	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の適切な管理と保全</li> <li>森林資源の活用</li> <li>生物多様性と生態系の保全・推進</li> <li>地域コミュニティとの関係構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の森林認証取得率※2 向上（国内は100%維持）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内：100%</li> <li>海外：96%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の多面的機能・生態系サービスの提供</li> <li>生物多様性と生態系の保全</li> <li>雇用の創出</li> <li>就労・教育・医療支援</li> </ul>	 6.6  8.7  14.2  15.1, 15.2, 15.3, 15.4, 15.5, 15.c
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外植林地400千haへ拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>295千ha</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>所有地内で再生した自然林の面積※2 2019年から2040年までの期間に5,000ha以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,933 ha</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>所有地内で植栽した郷土樹種の本数※2 2019年から2040年までの期間に90万本以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>32万本</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>所有地外で設置した緑の回廊の面積※2 2019年から2040年までの期間に6,000ha以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2,260 ha</li> </ul>		



## 資源の循環的利用


資源枯渇を防ぐため、紙および水を貴重な再利用可能な資源と捉え、循環的な利用を図る。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙利用の促進</li> <li>水リスクの低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙利用率<sup>※2</sup> 2030年度に国内で70%以上</li> <li>段原紙古紙利用率 2040年度に国内で90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>67.4%</li> <li>98.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動の緩和</li> <li>資源の枯渇防止</li> <li>廃棄物削減</li> <li>水不足への貢献</li> <li>安全な水の供給</li> </ul>	 6.4, 6.5   12.4, 12.5, 12.6   14.1   15.1, 15.2, 15.3, 15.4, 15.5, 15.c
	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水原単位 2030年度に2018年度対比6%以上削減</li> <li>取水総量 2040年度に2018年度対比10%以上削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(原単位)22.2%削減</li> <li>(総量)7.3%削減</li> </ul>		



## 責任ある原材料調達

あらゆる原材料を調達するためのサプライチェーンにおいて、環境および人権を含む社会に関する課題を看過せず、責任をもって対処する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーン上の環境配慮</li> <li>サプライチェーン上の人権配慮</li> <li>法令・社会規範の遵守と公正な取引</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要サプライヤー<sup>※3</sup>のサステナビリティ調査実施100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%（2024年度、フォローアップ調査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任ある生産消費形態</li> <li>サプライチェーン全体の労働者の権利保護、環境負荷の低減</li> </ul>	 8.7   12.1, 12.4, 12.6   15.1, 15.2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「木材原料の調達指針」に基づくトレーサビリティ調査の実施100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%</li> </ul>		



## 環境負荷の低減

製造過程において、周辺地域への環境負荷を最小限にするために、廃棄物の削減、排水、排気の浄化を推進する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の有効利用</li> <li>排水の浄化</li> <li>排気の浄化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物有効利用率<sup>※2</sup>の向上 国内：99%以上 海外：95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内：99.4%</li> <li>海外：90.2%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物削減</li> <li>安全と健康</li> <li>大気・水質汚染の削減</li> </ul>	 3.9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水中負荷 2030年度に2018年度対比でBOD・COD・SS原単位を15%削減 2040年度に2018年度対比でBOD・COD・SS総量を20%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BOD：(原単位)39.7%削減(総量)28.1%削減</li> <li>COD：(原単位)23.4%削減(総量)8.7%削減</li> <li>SS：(原単位)32.8%削減(総量)19.9%削減</li> </ul>		 6.1, 6.3, 6.4   11.6   14.1, 14.2, 14.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気汚染負荷 2030年度に2018年度対比でSOX原単位を15%削減 2040年度に2018年度対比でSOX総量を50%削減、NOx総量を10%削減、VOC原単位を維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SOx：(原単位)29.7%削減(総量)16.2%削減</li> <li>NOx：(総量)4.0%増加</li> <li>VOC：(原単位)76.5%削減</li> </ul>		 17.7, 17.8



## 人権の尊重

あらゆる事業活動における人権侵害を許容しない。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての事業活動における人権配慮</li> <li>職場における人権配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者への人権教育・研修の実施100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>95.4% (2025年3月～5月実施、総受講者数2,6747名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重</li> </ul>	 5.1, 5.4, 5.5, 5.c   8.5, 8.7, 8.8   10.2, 10.3, 10.4



## 人的資本の強化

持続的成長に必要な多様な人財（人的資本）を確保・育成する。全ての人財が能力を最大限に発揮でき、働きやすい環境を整備する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値※1	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークライフマネジメントの向上</li> <li>従業員のスキル向上</li> <li>インクルージョン&amp;ダイバーシティ</li> <li>コンプライアンス意識の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総労働時間1,850時間以内 （国内本社地区26社）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,850時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人財の活躍</li> <li>イノベーションの実現</li> <li>生産性の向上</li> </ul>	 5.1, 5.4, 5.5, 5.c   8.2, 8.5, 8.8   10.2, 10.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性の育児休業等と育児目的休暇の取得率100% （国内16社※2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>115.9%</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率 5.5%以上 （国内16社※2、2025年3月末）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.9%</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新卒採用女性総合職比率※230%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>41.2%（2025年度入社）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用率 2.5%以上 （国内グループ会社※2、2025年6月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内グループ適用 6社※2：2.55%、 国内68社※2：2.36% （2025年6月）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス会議参加率100%（王子ホールディングスおよび国内全子会社）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>98.8%（2024年度下期）</li> </ul>		



## 職場の安全衛生の確保

全ての従業員および関係者の安全衛生を確保する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の健康促進</li> <li>労働災害の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>死亡・重篤災害<sup>※4</sup>ゼロ（毎年度）</li> <li>労働災害度数率<sup>※2</sup> 2018年（0.89）対比50%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1件（2024年1月1日～12月31日）</li> <li>0.81（2024年1月1日～12月31日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全と健康</li> </ul>	 8.8



## 安全安心な製品の供給

世界中に安全安心な製品を供給する。

構成要素	KPI（重要業績評価指標） （特に記載のある場合を除き、2030年度）	現状数値 <sup>※1</sup>	社会に提供する価値	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の安定供給</li> <li>製品品質の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造物責任事故0件（毎年度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な製品提供</li> <li>環境負荷の低減</li> <li>開発途上国への環境に配慮した技術普及</li> </ul>	 9.4, 9.b   12.4, 12.6   17.7

※1 集計期間：記載のある場合を除き、2024年4月～2025年3月、または2025年3月31日時点（一部を除く海外は2024年1月～12月、または2024年12月31日時点）。対象範囲：記載のある場合を除き、国内外の連結子会社

※2 算出方法ESGデータ  参照

※3 取引額上位75%のサプライヤー

※4 重篤災害：王子グループでは、労働者災害補償保険法施行規則 別表第一障がい等級表の第三級以上の災害を重篤災害としています。

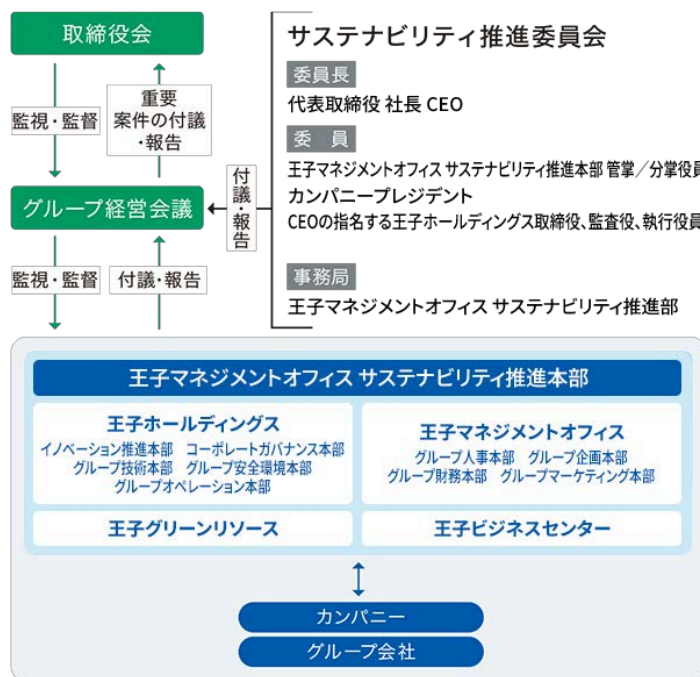
# サステナビリティ推進体制

## 体制

王子グループはサステナビリティへの取り組みを経営の重要課題の一つと認識し、2022年4月にサステナビリティ推進委員会およびサステナビリティ推進本部を設置しました。コーポレートガバナンスに関する基本方針に基づくリスク管理体制の整備および運用状況の監督の役割を果たすため、王子ホールディングスの取締役会がグループ経営会議を通してサステナビリティ推進委員会を監視・監督しています。

サステナビリティ推進委員会は、気候変動や自然資本・生物多様性、人権などのサステナビリティに関する統括責任者である、王子ホールディングスの代表取締役社長執行役員 CEOを委員長、取締役、監査役、執行役員（全カンパニーのプレジデントと女性社外取締役を含む）を委員として年2回開催され、サステナビリティに関するリスクおよび機会、対策について協議します。サステナビリティ推進委員会規程に基づき、協議事項は重要性に応じてグループ経営会議に付議・報告されます。さらに、経営会議規程に基づき、グループ経営会議で審議・報告された事項のうち、CEO（サステナビリティ推進委員会の委員長）が必要と判断する事項は、王子ホールディングスの取締役会に付議され、執行決定されます。2024年度は自然関連の測定指標・ターゲットの設定、森林破壊・転換ゼロコミットメントの公表、苦情処理メカニズムの導入（人権に関する相談・通報窓口の設置）などが決定されました。

サステナビリティ推進本部は、グループの統括管理部門として、サステナビリティ関連のグループ横断的なリスク・機会を特定します。それらを適切に管理するため、カンパニーおよびグループ会社を対象としたリスク別の部会等を通してグループ内への浸透を図るとともに、サステナビリティ推進本部の管掌取締役が毎月報告し、グループ経営会議に年2回付議・報告します。重要なリスク・機会は管掌取締役の判断のもと、取締役会に報告します。また、サステナビリティ推進委員会の事務局として、サステナビリティ推進委員会の決定事項を推進します。



## サステナビリティ推進委員会協議事項

1. 気候関連のリスク・機会、およびその対応に関する事項
2. 自社の自然関連の依存・影響・リスク・機会とその対応、および自然資本の回復・拡大に関する事項
3. 上流・下流バリューチェーンの自然関連の依存・影響・リスク・機会とその対応、および自然資本の回復・拡大に関する事項
4. サーキュラーエコノミー推進に関する事項
5. 持続可能な森林経営に関する事項
6. 自社およびサプライチェーンにおけるプラスチック汚染、使用量削減に関する事項
7. 水関連のリスク・機会、およびその対応に関する事項
8. サプライチェーンリスク、およびその対応に関する事項
9. 環境リスク、およびその対応に関する事項
10. 人権リスク、およびその対応に関する事項
11. 腐敗防止に関する事項
12. インクルージョン&ダイバーシティ推進に関する事項
13. その他、サステナビリティに関する重要課題、およびその対応に関する事項

# サステナビリティのリスク評価

新規事業のリスク評価 ▼ 既存事業のリスク評価 ▼

## 新規事業のリスク評価

王子グループでは、新規事業やプロジェクト等の投融資案件の審査に際し、経済面のみならず、「王子グループ企業行動憲章・行動規範」、「王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針」「王子グループ人権方針」等に従い、ESGの観点を含めてリスク評価を行っています。

労働安全衛生	安全衛生に関する法令の遵守状況はもちろんのこと、安全衛生方針・目標、安全衛生管理体制、死亡・重篤を含む休業1日以上労働災害の発生状況と対策の実施状況、安全パトロールや安全教育等の日常の安全衛生活動への取り組み、機械・設備、薬品、作業環境、作業方法等の安全性を確認することにより、リスク評価に役立っています。
水	水リスクの評価・把握にはWRI Aqueduct <sup>※</sup> を用いるとともに、プロジェクト・新規事業立ち上げ予定の地域における降雨量、渇水、水災害、水に関する法規制等のデューデリジェンスを行います。 ※World Resources Institute Aqueduct：世界資源研究所（WRI）が発表した地域ごとの水リスクの状況を示した世界地図・情報
生物多様性	新規事業やM&Aの検討段階で、各地域の行政、環境NGOに対するヒアリングや生物多様性のリスク評価を行っています。
人権	基本的人権への配慮がされているか、人権への負の影響を及ぼす要素がないかという観点から、特に児童労働、労務管理、先住民の権利、および労使関係等についてリスク評価を行っています。
腐敗防止	贈収賄、違法な取引および不正行為を行っていないことについて、取引先のみならず、代理店に関してもリスクを評価しています。

サプライチェーンのリスク評価に関してはこちらをご覧ください。

[サプライヤー・サステナビリティ調査](#) ▶

## 既存事業のリスク評価

既存事業やプロジェクトに対しては、内部監査部、安全部および環境管理部による定期的な監査を行っており、国内グループ会社のみならず、国外のグループ会社に対しても、人権リスクにつながる基本労働条件、職場安全環境の整備、環境リスクの管理状況等を確認しています。またリスクが指摘された事例に関しては改善指導を行うとともに水平展開を図っております。

[リスクマネジメント](#) ▶

# イニシアティブ・団体への参画

方針  国連グローバル・コンパクト  TCFD  CDP  気候変動イニシアティブ  GXリーグ  日本製紙連合会

30by30アライアンス  クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)  水に関する外部団体との協働

法規制・政策への対応と支持


## 方針

王子ホールディングスは、気候変動枠組条約に基づくパリ協定および昆明・モントリオール生物多様性枠組を支持しています。外部団体に参画する際には、当該団体の活動方針がこれらの国際的枠組と整合していることを確認します。また、参画中の団体における個別の活動についても整合性を確認し、国際枠組と整合しない活動が判明した場合には、会員としての立場から、当該活動の是正を求める意見を提出するか、当該活動への参加を見送ります。

外部団体との関わりにおいて気候変動を含むサステナビリティ戦略の一貫性を確保するため、経済産業省、環境省、厚生労働省などの政府機関や業界団体が主催するセミナーに積極的に参加し、最新の政策動向や業界の取り組みに関する情報を収集しています。また、外部団体の活動には委員として参画し、サステナビリティに関する議論で得られた知見を社内に共有しています。さらに、収集・共有した情報が王子グループの方針と整合しているかを確認し、代表取締役社長執行役員 CEOを委員長とするサステナビリティ推進委員会を通じて、必要に応じて社内で調整しています。このプロセスを通じて、サステナビリティ戦略と外部団体の活動との整合性を維持し、国際的な枠組みとの整合も含めて一貫した対応を確保しています。

## 国連グローバル・コンパクト

王子グループは国連グローバル・コンパクトに署名して「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を支持し、日々の事業活動における実践に努めています。

[国連グローバル・コンパクトへの取り組み](#) 

## TCFD

王子グループは、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD<sup>※1</sup>）への賛同を2020年12月に表明し、同タスクフォースが推奨する気候関連情報開示に取り組んでいます。

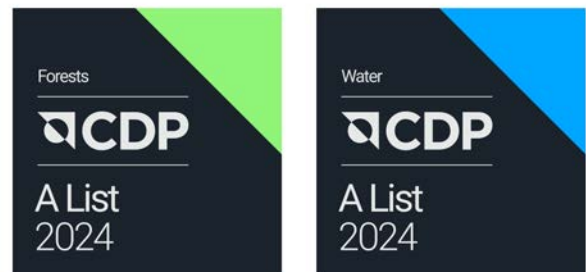


※1 TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures

G20財務大臣・中央銀行総裁会合の要請を受け、金融安定理事会（FSB）によって設立されたタスクフォースです。2017年6月、投資家の適切な投資判断のために、気候関連のリスクと機会をもたらす財務的影響について情報開示を促す提言を公表しています。

## CDP

王子ホールディングスは2025年2月、国際的な非営利団体CDP<sup>※2</sup>より、フォレスト（木材）分野について、最高評価「Aリスト企業」に3年連続で選定されました。さらに、水セキュリティの分野について、初めて「Aリスト企業」に選定されました。



※2 CDP：企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを運営する非営利団体です。企業の情報開示を促して気候変動・水資源・森林に関する取り組みを評価し、投資家・企業・自治体・政府の意思決定に活用される情報を提供しています。

CDP

	気候変動	水セキュリティ	森林
CDP 2024	B	A	A
CDP 2023	A-	A-	A
CDP 2022	A-	A-	A
CDP 2021	A-	A-	A-
CDP 2020	B	B	B
CDP 2019	B	B	B-


## 気候変動イニシアティブ

王子ホールディングスは、気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体、NGOなどの情報発信や意見交換を強化するために設立された気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative）に、2022年12月に参加しました。2023年4月には、再生可能エネルギーの導入加速と実効性の高いカーボンプライシングの早期導入によって、石炭火力など化石燃料への依存を減らし、気候危機とエネルギー危機という二つの危機の克服をめざすことを日本政府に求めるメッセージ<sup>※3</sup>に賛同し、気候変動イニシアティブを通じて発表しました。

パリ協定が求める脱炭素社会の実現に向け、企業や自治体、NGOなど、政府以外の多様な主体（non-state-actors）の一員として、2040年度の正味ゼロ・カーボン化<sup>※4</sup>達成に向けて継続的に取り組んでいきます。


※3 [JCIメッセージ：再生可能エネルギーとカーボンプライシングで二つの危機を打開する](#)

※4 [環境行動目標2040](#)

[気候変動イニシアティブ](#) 

## GXリーグ

王子ホールディングスは2023年5月に本格稼働したGXリーグに参画しました。同リーグでは、カーボンニュートラルに挑戦する企業群が、日本政府・大学・金融機関等とともに、経済社会システム全体の変革（グリーン・トランスフォーメーション）を議論し、実践していきます。

[GXリーグ](#) 



## 日本製紙連合会

王子グループ4社（王子ホールディングス、王子マテリア、王子エフテックス、王子製紙）は日本製紙連合会に加盟しています。日本製紙連合会は、日本経済団体連合会が取り組む「カーボンニュートラル行動計画（旧 低炭素社会実行計画）」に参画しています。王子グループは、「カーボンニュートラル行動計画」の趣旨に賛同して、2030年を目標年とする「カーボンニュートラル行動計画」<sup>※5</sup>に参加し、計画策定・進捗報告を行うエネルギー／技術委員会の委員を務めています。また、同連合会の環境保全委員会にも委員として参加しています。

これらの活動を通じて、CO<sub>2</sub>排出削減目標の策定など、気候変動問題に関する業界団体としての政策提言に王子グループの意見を反映させるなど、間接的に行政へと働きかけを行っています。

※5 カーボンニュートラル行動計画では「2030年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量を2013年度比38%削減」する目標を設定しています。


[日本製紙連合会](#) 

## 30by30アライアンス

2021年6月のG7サミットにおいて約束された「2030年までに陸と海の30%以上の保全」を目標とし、環境省主導の下、有志の企業・自治体・団体により結成された「生物多様性のための30by30アライアンス」に、王子ホールディングスも参加しています。同アライアンスでは、参加者の所有地や所管地の国際OECM※6登録をはじめ、保護地域の拡大・支援などを行います。



※6 OECM：Other Effective area-based Conservation Measures 国立公園などの公的な保護地域以外で生物多様性保全に貢献する区域を指し、適切に管理されている企業林や里地里山などが対象となります。

[環境省30by30](#)  [生物多様性保全](#) 

## クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）

王子ホールディングスは、海洋プラスチック問題の解決に向けた取り組みを推進するクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）に発起人の1社として参加し、他産業と協働で海洋プラスチックの削減に取り組んでいます。




[CLOMA](#) 

## 水に関する外部団体との協働

王子ホールディングスは、世界的な環境情報開示システムを運営する非営利団体CDPIに対し、2014年より継続して、水資源管理を評価する水セキュリティ分野の質問書に回答しています。

また、国内外の水関係者の交流連携窓口として、国連機関・国際機関、開発銀行、政府・自治体、民間企業、研究者、NGOなどの多様な関係者と連携する特定非営利活動法人日本水フォーラムの趣旨に賛同し、2004年の設立以来、会員として参加しています。

[日本水フォーラム](#) 

## 法規制・政策への対応と支持

王子グループは国内外の各拠点において、気候変動対策やエネルギー使用に関する法規制（国内では「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」や「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）」など）を遵守するとともに、関連する政策にも積極的に対応しています。

なお、省エネ法では一定規模以上の事業者に対し、エネルギー消費原単位を年平均1%以上改善するよう努めることが求められています。王子グループの該当拠点では毎年目標を設定し、改善に取り組んでいます。

# 資源環境型ビジネス

持続可能な森林経営 ▼ 再生可能な資源の循環的利用 ▼ 木質由来の新素材開発 ▼

## 持続可能な森林経営

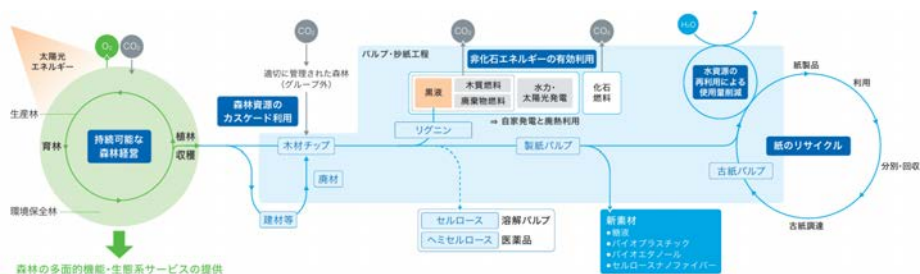
王子グループは、国内外に広大な森林を保有・管理しています。環境、社会、経済に配慮した持続可能な森林経営を実践することで、再生可能な資源を育てるとともに、森林の多面的機能を発揮し、生態系サービスを社会に提供しています。

## 再生可能な資源の循環的利用

再生可能な森林資源を育て、調達し、カスケード利用しています。また古紙を原料として繰り返し使用する紙のリサイクルを推進、市中で発生する貴重な資源を有効利用しています。さらに紙の製造に欠かせない水も、循環・再利用することで、使用量を削減する仕組みを構築しています。

## 木質由来の新素材開発

新しい用途探索、実用化を進めているセルロースナノファイバー（CNF）や、バイオものづくりの基幹物質となる木質由来の糖液・エタノール、さらにはパルプ製造時の副産物から得られる「硫酸化ヘミセルロース」を原薬とした医薬品の研究開発を通じて、新たな価値創出によりさまざまな社会課題の解決を目指しています。



再生可能な資源の循環的利用 概念図